

トロイア戦争

妻ヘレネが誘拐される 結婚から十年後、パリスがメネラオスの屋敷に客としてやってきた。メネラオスは祖父カトレウスの葬式でクレタ島に行って留守だった。パリスはヘレネを誘惑し、スパルタのほとんどの宝を船に積んで、トロイアへと逃げた。ヘレネの娘ヘルミオネを置いていったが、その時九歳だった。

アウリスに軍勢を集結させる メネラオスは何があったか知ると、兄のアガメムノンに軍隊を興して彼の妻と財産を取り戻すように頼んだ。彼は使者を各地につかわし、テュンダレオスの誓約をたてにとって、求婚者だったものはヘレネの夫を救う義務があることを思い出させた。ほとんど全ギリシャが動き、トロイアを攻める側と守る側に二分されることになった。こうしてエウボエア島の向かい、ボエオチアの港アウリスの地にトロイア遠征の軍勢が集められた。

イピゲネイアを犠牲に捧げる 艦隊は風向きが悪くてアウリスを出発することが出来なかった。軍にいらいらした空気が流れてきた。予言者カルカスはアガメムノンが娘のイピゲネイアをアルテミスに捧げたら出発できるだろうと公言した。アガメムノンも父としてこれには抵抗を覚えたが、メネラオスの強い説得によって、ついに自分の娘を犠牲に供したのだった。

大使としてトロイアへ行く トロイアにやってくると、アカイア人はオデュッセウスとメネラオスを使者に送って、ヘレネと財産の返還を要求した。トロイア人はこれを拒否したばかりでなく、使者たちを殺すと脅したが、和平を擁護していたアンテノルの仲裁でなんとか事なきを得た。このため、トロイア陥落後の略奪の際もアカイア人はアンテノルの屋敷には手を出さなかった。

トロイア戦争最後の年

パリスと一騎打ちをする トロイア戦争十年目に、メネラオスとパリスの一騎打ちで勝負を決める試みがあり、休戦協定が結ばれた。メネラオスはあと少しで敵を討てる所だった。彼がパリスの兜の天辺をつかんで自陣へと引き摺りはじめた時に、アプロディテが間に入り、兜のひもを断ち切った。彼は再び打ちかかったが、女神はパリスを霧で隠し、町へ連れ戻した。パンダロスがメネラオスに矢を射て浅い傷を負わせ、休戦は破れた。アスクレピオスの子マカオンが傷をなおした。

トロイの木馬に参加する 力攻めではトロイアは陥落しなかったが、オデュッセウスがトロイの木馬の計略を思いついた。戦士たちはこの危険な道具の中に入り（メネラオスもその一人だった）、町に侵入すると、残りの軍勢のために門を開いた。



(画像/ヘレネとメネラオス)

デイポボスを殺す [トロイア](#)の略奪の時に、メネラオスの部隊は、[パリ](#)スの死後[ヘレネ](#)と結婚していた[デイポボス](#)の屋敷に来た。メネラオスは、[デイポボス](#)を捕らえると、彼の耳と鼻を削ぎ、手足を一つずつ切り落とし、苦痛を与えながらバラバラにした。ヘレネは自分の船へ連れて帰った。

トロイア戦争終了後

地中海を放浪する [トロイア](#)の略奪で[アカイア](#)人によって、多大な罪が神々に対してなされたので、彼らは帰るのに苦労したり、あるいは帰ることが出来なかった。メネラオスは[スパルタ](#)に帰るまで8年間地中海をさまよった。メネラオスは最初[アッティカ](#)の[サニウム](#)に五隻の船で行った。それから[クレタ](#)島に吹き戻された。[リビュア](#)、[ポエニキア](#)、[キュプロス](#)と、財宝を集めながらさまよった。エジプトで操舵士の[カノバス](#)が死んだが、彼は[アレクサンドリア](#)の東の町の名前の語源になった。

海の翁プロテウスに会う メネラオスはエジプトで[プロテウス](#)と会う。彼は過去現在未来を見ることができるが、質問に答えたがらず、変身によって逃れようとする。[エイドテエ](#)の助言に従って、メネラオスは彼が家に帰った所を待伏せて鎖で捕らえ、正体を明かさせた。プロテウスは神々が[トロイア](#)の陥落に怒っており、生贖で鎖めなければならないと言った。メネラオスは指示に従い、8年ぶりに故郷へ帰った。

甥のオレステスに会う [アルゴス](#)を經由して故国に戻ると、父の仇を討って追われている甥の[オレステス](#)に会った。彼は死刑にされることに怯えており、メネラオスに助けを求めた。しかし、メネラオスは助けようとせず、市民と[テュンダレオス](#)に慈悲を乞うことを約束しただけだった。妻の父ティンダレオスに逆らうのは、賢い選択ではなかったからである。このため、オレステスは姉と[ピュラデス](#)とともに一時[ヘレネ](#)の殺害を企んだが、それがなされることはなかった。

娘のヘルミオネを結婚させる 娘の[ヘルミオネ](#)について、メネラオスは結婚の約束を2つしていた。ひとつは[トロイア戦争](#)の前に[オレステス](#)と、もうひとつは[トロイア](#)で[ネオプトレモス](#)とである。戦争が終わると、[ネオプトレモス](#)は[スパルタ](#)に来て、ヘルミオネを妻に要求した。その時オレステスは狂っていたので、メネラオスはネオプトレモスに娘を与えた。後にオレステスは正気に返ると、ネオプトレモスを殺し、ヘルミオネを妻にした。彼女はネオプトレモスの家では不幸な生活だった。彼女の夫は[アンドロマケ](#)を妾とし、子供ももうけていたからである。メネラオスは娘を守るため、[アンドロマケ](#)を殺そうとしたが、[ペレウス](#)に妨害された。

幸福な晩年をおくる 数年が経ち、メネラオスは国も妻も平和も、元どおりに取り戻していた。[テレマコス](#)が父の消息を求めて彼に会いに来た。それから、[ヘレネ](#)とメネラオスは屋敷で幸せに暮らした。寿命が尽きたとき、メネラオスは[ヘラ](#)によって不死とされ、[エリュシオン](#)の野でヘレネと暮らしたという。